



まちかど インタビュー

住む人に優しい公営住宅に

雇用促進住宅ひろの宿舎購入

「雇用促進住宅ひろの宿舎」については、現在、その管理・運営を行っている独立行政法人雇用能力開発機構より、広野町に譲渡話が持ちかけられています。

町は、購入によってさまざまな問題が生じるものの、定住人口の確保および町全体の住宅政策の見直し等の観点から、購入を決定し、このほど12月定例会でそれらの購入費を予算化しました。

そこで今回は、「雇用促進住宅ひろの宿舎」の購入について、ご意見・ご感想を伺いました。



好川 直美さん
下浅見川・桜田

雇用促進住宅に住めなくなったらどうしようかと不安を抱いていました。

このたび町で購入費用を予算化したと聞き安心しましたが、公営住宅として使用するにはいくつか住環境に問題があります。

住んでみて分かることですが、この住宅は5階建てにもかかわらずエレベーターが設置されていないため、上の階に行くほど、移動はもろろん、荷物の運びには苦労します。しかも、1階に出入りするのでさえ階段を

昇り降りしなければなりません。

これから公営住宅として活用されるのであれば、車椅子やベビーカーを利用される方に配慮してエレベーターやスロープを設置するなど、高齢者や育児中の家族に優しい住宅に変えていただければと思います。

近くに住んでいるせいか、この建物に愛着もあるのですが、町が購入を決めたことについては大いに賛成します。5階建てなのにエレベーターが設置されていないなど、欠点もありますが、まだまだ使える住宅ですし、町の人口減少を食い止めている役割は大きいと思います。

これからも公営住宅は必要不可欠ですから、既存の老朽化した住宅の代替として役立てることを考えていただければいいのではないかと思います。



新妻 常敬さん
下浅見川・桜田

編集後記

明けましておめでとうございます。

昨年は事件・事故が多く、加えて金融危機と景気の悪化は、依然世界中を覆っています。

しかし、一方では、北京オリンピックでの北島選手をはじめとする日本選手勢の大活躍や、4人の日本人がノーベル賞を受賞するなど、国民に夢と希望そして、勇気を与えてくれるニュースも数多

くありました。本町では、待望の東京電力㈱広野火力発電所6号機の建設工事が着手されました。これにともなう経済効果をしっかりと捉えて、地元商工業の振興発展と町づくりに反映させるべきと考えます。新しい年が平穏で、皆さまに幸せ多い1年でありますよう心よりお祈りいたします。

(鈴木正範)

広報委員会

- 議長 坂本 紀一
- 委員長 中津 伸一
- 副委員長 渡邊 正俊
- 委員 鈴木 紀昭
- 委員 塩 史子
- 委員 鈴木 正範

次の定例会は3月です

